すがもらいぶらり

2024年11月号(11月1日巣鴨図書館発行)

11月1日はとしま文化の日。巣鴨図書館では11月に楽しいスタンプラリーのイベント（児童向け）を企画しています。駒込・上池袋・巣鴨図書館を巡るスタンプラリーです。

巣鴨図書館の近くには、大正大学の附属図書館もあります。豊島区とも連携をしており、11月9日には豊島区立図書館と連携して、「にぎやかな図書館祭（フェス）2024」を開催予定です。附属図書館内の見学や工作のワークショップもあります。

いつも利用している図書館以外にも足を運ぶと新たな発見があります。豊島区立図書館のみならず、大正大学附属図書館も、この機会に是非訪ねてみてください。

去年とても好評だった、児童向けイベント「おはなし会スタンプラリー」が帰ってきました。プレゼントもパワーアップ！みんな来てね！

司書の部屋

「図書館で働いていて、楽しいことは何ですか？」
小学生が図書館見学に来てくれた際に、インタビューを受けることがあるのですが、よく聞かれる質問です。

毎回少し考えてしまいますが「子どもの頃から本が好きだったので図書館員になってどの仕事も楽しいですが、利用者さんから探している本の相談をされてその本が見つかったときは特に楽しいです」と毎回ほぼ同じ答えになります。
ご存じの方も多いと思いますが、図書館にはレファレンスサービスといって調べもの（調べ方）を支援するサービスがあります。
「巣鴨の昔の〇〇が知りたい」「〇〇の木の育て方の本」「何曜日かにカエルを食べようとする本」「おばけが子どもを連れて行く絵本」「昔のお金（特に硬貨）について調べたい」
など内容は多岐に渡っています。検索を頑張っても、少ない自分の知識を絞り出してもなかなかすぐに見つからないこともあります。題名や内容、目次などにヒットしない本の中身は検索に引っかかってこないのです。
そうなるともう会話力でいろんな角度からどれだけ利用者さんから資料に繋がるネタを引き出せるか、だと思っています。
該当の資料を見つけたときは、お互いにとても嬉しくて何だか心の距離も縮まったような気持ちになります。探し出すまでの不安な気持ちやワクワクする気持ちもあり、とても楽しい仕事だと思っています。
インターネットで検索するとすぐにいろんな情報が得られ、便利になりました。でも本から探し出すワクワクもぜひ楽しんでほしいなと思います
今回は図書館での調べ方の本を紹介します！　（I）

おすすめ本

『１００万回死んだねこ　覚え違いタイトル集』
福井県立図書館/編　講談社
『図書館のプロが教える〈調べるコツ〉』
浅野高史＋かながわレファレンス検索隊／著
柏書房
『調べ学習の基礎の基礎』
赤木かん子／著　ポプラ社
『図書館のトリセツ』
福本友美子・江口絵理／著　講談社

11月の行事

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
新刊お話会スペシャル	休館	おはなし会スタンプラ				
10	11	12	13	14	15	16
新刊お話会		おはなし会スタンプラ				
17	18	19	20	21	22	23
新刊お話会		赤ちゃんお話会			休館	
24	25	26	27	28	29	30
新刊お話会						

＜日曜＞新刊本を出します。
新刊コーナーにご注目！
毎週11時から、幼児から小学生低学年向けのお話会があります。
＜火曜＞第３火曜日１１時から、赤ちゃん向けお話会があります。

11月3日11：00から、児童向けイベント、文字活字文化の日スペシャル「おそとでわくわくおはなし会」を行います。
すがもがーでんで秋を感じながら、おはなし会を楽しんでください。晴れますように！（雨天の場合は、いつもの地下会議室でおこないます）

11月２日～11月17日は児童向けイベント「おはなし会スタンプラリー」です。いつもと違う図書館のおはなし会にぜひお子さんとご参加ください。※詳細は表紙をご覧ください。（N）

じぞうさんぽ　【突撃！　としまの図書館】

今年度の、「じぞうさんぽ」は、知っているようで知らない地元「豊島区の図書館」をめぐります。
第5回目は、「池袋図書館」です。

１）御嶽神社

２）パソコン席

３）一般書コーナー

４）東京都地域資料

５）江戸川乱歩コーナー

６）児童室

閉館音楽

♬　森の時計のテーマ
♬　からたちの花
♬　としま未来へ

＜地域に愛される図書館＞

池袋図書館は、池袋駅西口から１５分程のところにあり、昭和61年5月に開館しました。近くにはこの一帯の氏神である御嶽神社[1]をはじめ、みらい館大明（旧大明小学校）、池袋幼稚園、池袋第二公園などの地域に密着した施設に囲まれた図書館です。
蔵書数は約10万冊で、１階には一般の閲覧席が４５席、２階には児童の閲覧席が16席、また、パソコン席[2]が１階に2席あります。

１階[3]は、一般書と雑誌コーナー、東京都地域資料[4]や、地域にゆかりのある作家「江戸川乱歩」コーナー[5]もあります。江戸川乱歩（本名：平井太郎1894～1965）は、大正から昭和にかけて活躍しました。乱歩の寄付で創設された江戸川乱歩賞が推理小説の登竜門となるなど後世にも大きな影響を与えています。乱歩が池袋に引っ越してきたのは、1934年でした。1936年少年向けとして、明智小五郎と少年探偵団が活躍する『怪人二十面相』が発表され、子供たちから絶大な支持を受けシリーズ化されました。

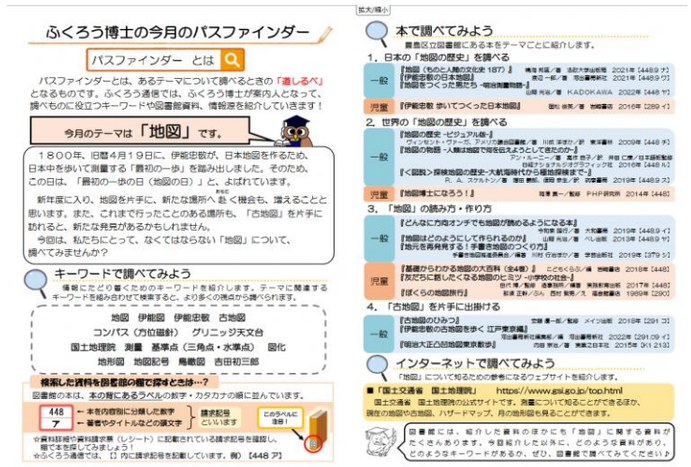
２階は、児童室[6]、閲覧室、東南アジアの本のコーナー[7]があります。豊島区立図書館では各館で重点的に資料を集めていますが、池袋図書館は『東南アジアの文化・芸術等に関する資料』の本を集めています。バラエティーに富んだ本が多く、アジアに旅をしたような気持になります。児童室には、赤ちゃん向けの絵本が赤ちゃんでも手の届きやすいところに置かれていて、親子でゆっくりくつろぎながら絵本を読めるようになっています。池袋第二公園に隣接している大きな窓からは公園の緑が見えて解放感があり、時間を忘れて親子で楽しめます。

池袋図書館では、夏休みには調べもの講座も開かれています。毎月発行されている「ふくろう通信」でさまざまなテーマでパスファインダー[8]を作成しています。調べる時に役立つキーワードや図書館資料、情報源を紹介しています。いままで手に取ったことがなかった本との出会いもあるかもしれません。館内で配布していますので、ぜひ手に取ってみてください。

（F）

７）東南アジアに関する資料

池袋図書館のキャラクター
ふくろうくん



８）パスファインダー

池袋界隈を知るなら…

『江戸川乱歩全集　２５』
　ブッククラブ江戸川乱歩／著　講談社
『江戸川乱歩ー日本探偵小説の父ー』
　戸川安宣／監修　平凡社
『アジア料理をカレーにしたら？』
　エダジュン／著　文化学園文化出版局
『アジアを生きる』　姜尚中／著　集英社